

# のり海況速報 第9報 (22-9)

平成23年1月28日発行  
 千葉県水産総合研究センター  
 東京湾漁業研究所  
 千葉県農林水産技術会議

資料 のり海況調査 (1/26：内湾, 1/27：内房北部)  
 関東・東海海況速報 (1/27), 東京湾口海況図(1/27)

## 【水温・塩分の状況】

内湾から内房北部海域の表面水温(図1, 2)は前報(1月11日)よりさらに1℃降下し、ほぼ9~14℃台になっています。

塩分はほぼ全域で30~34台前半となっています。

一方、黒潮は12月下旬ごろから接岸傾向が続いています。このため、これに伴う暖水が相模灘・東京湾口に向かって弱いながらも断続的に波及しており、ここに来て大貫ベタ流し漁場内まで水温14℃台・塩分34台の水塊が流入しています。この動きには十分な注意が必要です。

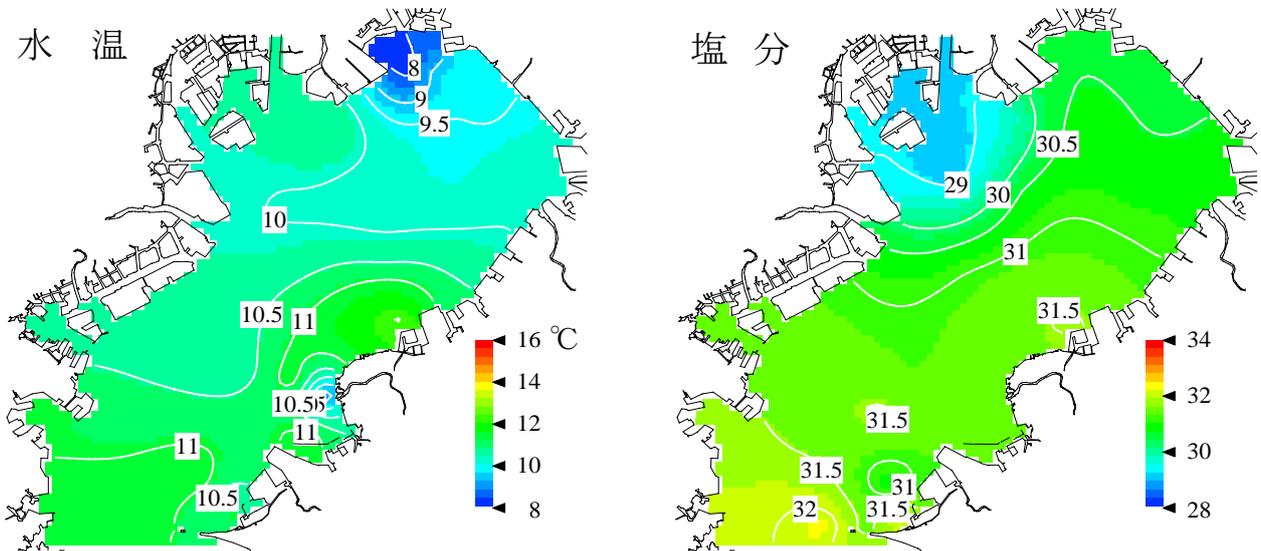


図1 表層の水温・塩分分布 (内湾：平成23年1月26日)

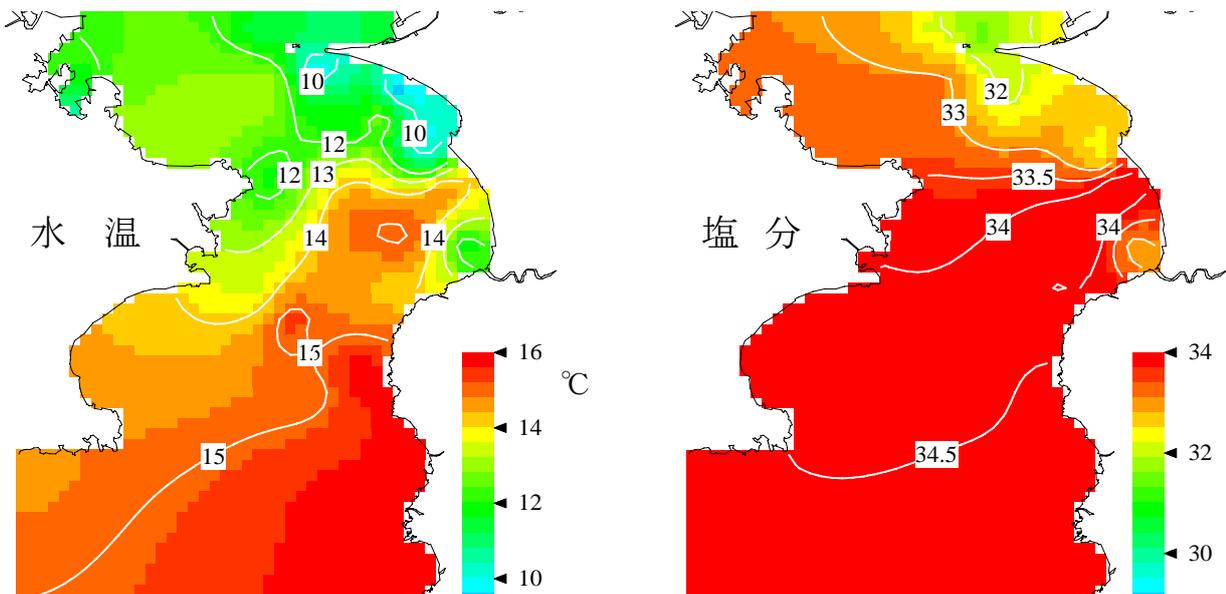


図2 表層の水温・塩分分布 (内房北部海域：平成23年1月27日)

### 【赤潮・栄養塩の状況】

赤潮は内湾及び内房北部海域で発生し、内湾北部海域ではpH 8.5~8.6に上昇、透明度2m台まで低下し、水色も褐色のやや濃い赤潮状態でした。また、各地区のノリ漁場内も赤潮状態となっていました。

優占種はケイ藻のキートケロスで、ノリの色落ち被害をもたらすユーカンピアも出現してきました。

表層の栄養塩(図3, 4)は全域でリン酸態リンが激減し、ノリの色落ち濃度( $10 \mu\text{g}/\ell$ 以下)を大きく下回っていました。また、大貫ベタ・湊ベタ流し漁場付近では、溶存無機態窒素も激減しており、ノリ養殖にとって厳しい環境になってきています。

栄養塩の回復にはまとまった降雨などが必要がです。

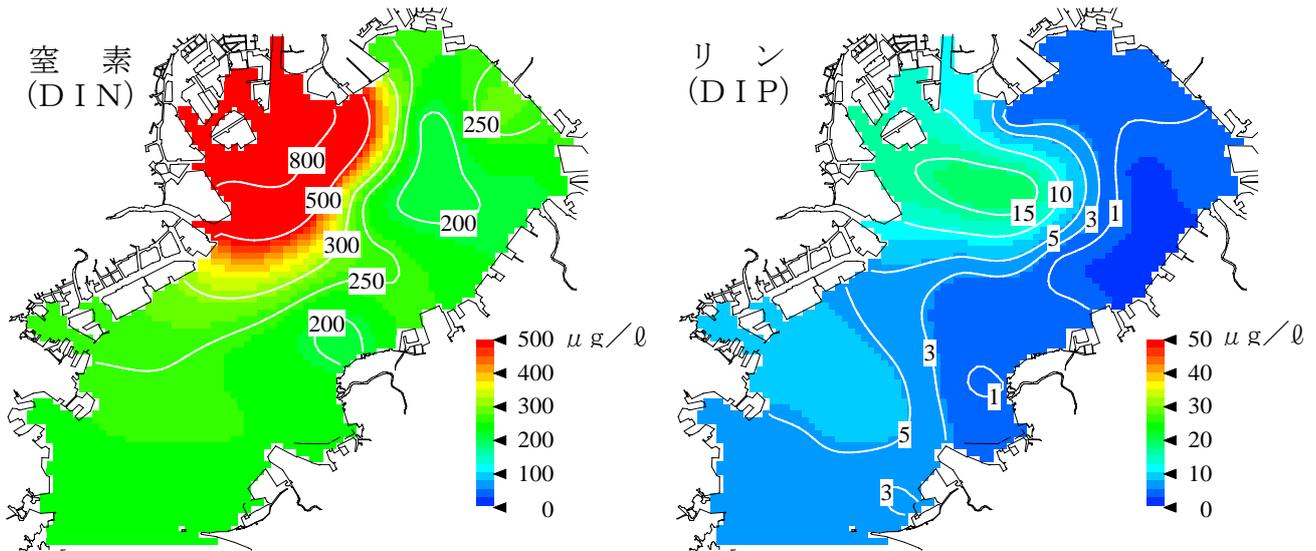


図3 表層の栄養塩濃度の分布 (内湾 : 平成23年1月26日)

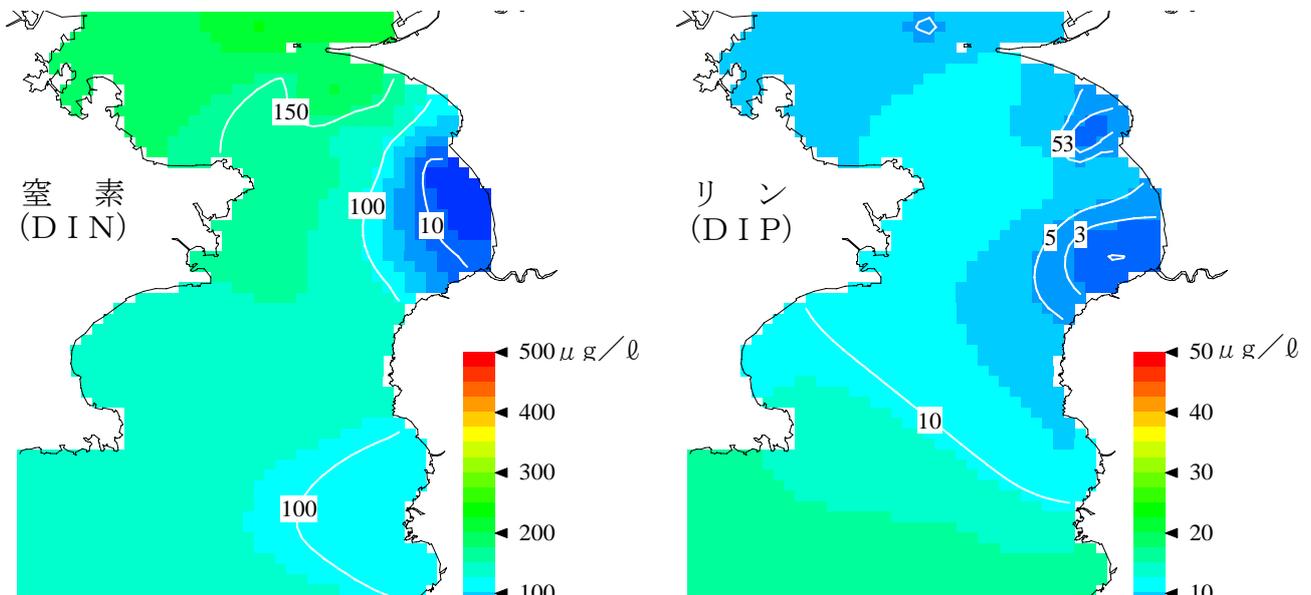


図4 表層の栄養塩濃度の分布 (内房北部海域 : 平成23年1月27日)